

令和6年度 第1回国立大学法人大分大学認定再生医療等委員会議事概要

日 時：令和7年2月27日（木） 16：00～16：30

開催形式：ハイブリッド開催

会 場：大分大学医学・病院事務部多目的室（管理棟1階）

出席者：上村尚人委員長、大橋京一委員、富永志津代委員、伊東弘樹委員、青野篤委員、
馬場雅之委員、高窪修委員

欠 席：衛藤剛委員、河原直人委員、石川須美子委員

陪 席：渡邊信一郎副課長、江藤優未医事企画係員

【参考資料1】国立大学法人大分大学認定再生医療等委員会規程

【参考資料2】認定再生医療等委員会名簿

【参考資料3】第三十七条（認定再生医療等委員会への定期報告）再生医療等の安全性の確保等
に関する法律施行規則

【参考資料4】再生医療等提供計画の提出）第二十七条法第四条第一項

【資料1】再生医療等提供計画（治療）第一の二（第二十七条関係）

【資料2】大分大学医学部附属病院認定再生医療等に関する業務の実施に係わる業務手順書

【資料3-1】詳細を記した書類一式（多血小板血漿（PRP）を用いた難治性皮膚潰瘍の治療）

【資料3-2】PRS Diabetic foot ulcer

【資料3-3】特定細胞加工物概要書一式

【審議事項】

1. 認定再生医療等に係る審査について

(1) 定期報告

再生医療等の名称：多血小板血漿を用いた難治性皮膚潰瘍の治療

報告期間：令和6年1月24日～令和7年1月23日

形成外科 清水講師から資料に基づき報告があった。なお、治療を行う候補の患者はいる者の、実施に至っていない状況であると報告があった。

症例数は0件である旨報告があり、今後に向けての計画、他大学、クリニックでの実績、安全性等について説明があった。

【質疑応答】

・実施に至っていない要因について、また、今後の可能性について伺いたい。

→ いくつか要因があるが、合併症のある患者が多く、待機中に基礎疾患が悪化して候補とならなくなる場合、入院に抵抗がある場合などがある。

→ 当院内では褥瘡の発生率は低いため、紹介により入院して治療という形で進めていく

想定である。

(2) 継続の適否について

審議の結果継続することです承された。

2. その他

事務局より、大分大学医学部附属病院長の交代とそれに基づく手続きの実施について、説明があった。